団体の概要 (NGO/NPO用)

団体名 落合野鳥の会

所在地	〒719-3155 真庭市下方 591-1 TEL:0867 - 52 - 2163 FAX:0867 - 52 - 2163 E-mail:grin@hotmail.co.jp		
ホームページ	なし		
設立年月	1993年	6月	* 認証年月日 (法人団体のみ) 年 月 日
代表者	宮林 英子	担当者	宮林 英子
組織	スタッフ 3名 (内 専従 0名) 個人会員 95名 法人会員 名 その他会員 (賛助会員等) 名		
設立の経緯	日本鳥類保護連盟、日本野鳥の会、津山市の作州野鳥の会に所属して野鳥観察を続けるうちに自然環境を学ぶ。 1993年、仲間を誘って地元、真庭市落合地区で当会を組織		
団体の目的	田舎に住んで、川や山を身近に見ていても自分の飲み水をどこから得ているのか、知らない人がいて驚いた。こんな事では川が汚れるのは当然のこと。会報を通じて、自然のしくみ、山の恩恵、川の恩恵にふれている。 野鳥観察を通じて環境学習、水の学習をする。 自分の飲み水を認識する事。		
団体の活動プロフィール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月一回の探鳥会 ・ 奇数月に会報発行 ・ 依頼があれば小学校や保育園へ出かけて探鳥指導自然界のしくみと人の関わりについて話す ・ 旭川流域ネットワークに所属し、子供達の水学習のサポートをする 		

活動事業費 (平成16) 約80,000円

政策のテーマ

自然エネルギーの有効利用で国力をつける

政策の分野

・
・

政策の手段

団体名：落合野鳥の会

担当者名：代表 宮林 英子

政策の目的

に対応。

太陽光エネルギーの積極的な利用。普及により安心して暮らせる社会にする。また一流企業による電力の供給は一たび事故があった時に都市機能のマヒにつながる。

小さな発電所を多数作る。庁舎、病院、公民館等、公共の建物には必ずソーラーシステムをつけ、将来的には各戸にソーラーをつける。

背景および現状の問題点

電子力発電は最終処分が出来ず、大問題をかかえている事。危険ととなり合わせ、将来の人工減少の時は不要になる。巨大発電に万一の事故があった時は日本国が社会的、経済的に沈没しかねない。

原発にかかるお金をソーラーシステムの開発費にまわし、一般個人が設置しやすい価格にする。太陽に恵まれない地域は小川を利用した水力発電など、小さな単位での発電を充実させる。足りない分を企業から買う。

政策の概要

日本は雨に恵まれ、太陽に恵まれ、暮らすには大変良い場所に位置している。川の落差を利用して水力発電を各地に充実させる。太陽に恵まれた地域では補助金を出して太陽光発電を各家々に普及させる。

公共施設も基本的に自家発電（太陽・水・風）で賄い、不足分を企業の電力に頼る。

全国で小さな発電システムを展開したなら新たな危険な原発は不要。

人口減少が始まっており、日本の風土に根ざした穏やかな発電で、山、川、水を守る。

石油高騰の折も、自然発電の比率を上げる事で、石油事情に左右されない国作りが出来る。

費用は原発対策費でかなり賄える。小さな単位で発電する事で、万一の災害等で都市機能のマヒを回避出来る。

自然の力を使った発電を周知させる事で、人の暮らしと自然環境、水の大切さを理解させる事が出来る 国土を守ることに繋がる。

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

- ・ 地域により、太陽、風、水、雪を利用した発電機能を開発し、助成金を出して、自家発電を応援する。
- ・ 山や川、雨、雪を利用する事で自然環境に意識が向き、環境保護につながる。
- ・ 地元の木材を使って建物を建てる。これより山の保全が図れる 国土の保全

政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

国・自治体・企業・個人

政策の実施により期待される効果

石油エネルギーから離れる事により、京都議定書をクリアできる。
きれいな空気、水、穏やかな日本をとり戻せる。

その他・特記事項

- ・ その地域に根ざした小さな単位の発電機を低コストで開発出来たら、発展途上国及び災害時に海外で有効に活動、協力する事ができる。
- ・ 石油事情に左右されない国力をつける事ができる。